SHIGA BANK

富士車輌　株式会社

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

発行日：2025 年 10 月 31 日
発行者：株式会社滋賀銀行　営業統轄部
ESG ファイナンスチーム

Copyright © 2022 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

滋賀銀行は、富士車輌株式会社（以下、富士車輌）に対してポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響およびネガティブな影響）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、滋賀銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

目　次

1. 企業概要と理念、サステナビリティについて 3

（１）富士車輌の概要ならびに企業理念 3

（２）サステナビリティ 4

（３）重要課題.....5

2. インパクトの特定.....6

（１）包括的分析によるインパクトの特定プロセス 6

（２）富士車輌における分析 6

（３）特定したインパクト領域 13

（４）インパクトニーズとの関係性.....20

（５）本 PIF に対する当行の意図.....21

3. インパクトの評価.....22

4. モニタリング 27

（１）富士車輌におけるインパクトの管理体制と開示方針 27

（２）当行によるモニタリング 27

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

1. 企業概要と理念、サステナビリティについて

（1）富士車輌の概要ならびに企業理念

社名	富士車輌株式会社
所在地	滋賀県守山市千代町 13-1
創業	1925 年 10 月
資本金	2 億 5,000 万円
事業内容	環境機器・リサイクルプラント、特殊車輌の開発・製造
従業員数	179 名（2025 年 3 月末時点）

富士車輌は、滋賀県守山市に本社を置き、破砕機・選別機などの環境機器やリサイクルプラントのほか、LPG タンクローリーや塵芥車といった特殊車輌の開発・製造を手掛ける環境エンジニアリング企業である。

同社の沿革は、1925 年に鍛造機械メーカーとして創業したことに始まる。1944 年に法人化し、富士造機株式会社を設立。翌年の 1945 年に商号を富士車輌株式会社に改称した。創業当初から培ってきた鍛圧機の技術を応用・発展させ、プレス機による量産品技術を確立。1957 年に高圧容器分野へと事業領域を拡大し、各種公衆衛生車の製造・販売を開始。さらに、油圧プレス機の開発、板金プレス・シャー（せん断機）分野への進出を経て、1970 年に鉄屑処理機械の製造・販売を開始した。これが、現在の環境リサイクル事業の源流となっている。2014 年に産業廃棄物処理・リサイクルを展開する株式会社タケエイ（以下、タケエイ）の 100％子会社となる。その後、タケエイとリバーホールディングス株式会社の経営統合により、TRE ホールディングス株式会社の傘下に入り、グループ内で唯一のエンジニアリング企業としての役割を担う。そして、2025 年 10 月に創業 100 周年の節目を迎えている。

同社は、経営理念を“世の中に向けて約束すること”と捉え、「信頼と品質で資源循環型社会の発展に貢献します」と掲げている。この経営理念は、社会動向や事業の移り変わりを受けて、2018 年 11 月に新たに策定されたものである。信頼と品質をメーカーとして欠かせない要素と考えており、同社の経営理念は本業を通じて果たすべき社会的役割を端的に表している。長年にわたり培ってきた技術・ノウハウ・実績を基盤に、TRE グループが有するリサイクルスキームやノウハウと融合させることで、新たな付加価値を持つ製品とサービスの提供を目指し、技術革新への挑戦を続けている。

■本社・工場

［出所：富士車輌からの提供］

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

➢ **環境リサイクル事業**

金属スクラップや廃棄物などを破砕、選別、圧縮し、有用な資源として再資源化するための設備機器およびリサイクルプラントの設計・製造・販売を行っている。ハンマー式破砕機、磁力や風力を利用した選別機など多種多様な機器を取り揃え、安全・高性能・低コストのソリューションで、顧客のリサイクルニーズに対応している。

■破砕機

■高度選別機

■スクラップシャー

［出所：富士車輌ウェブサイト］

➢ **車輌事業**

暮らしや産業に不可欠なLPGを安全かつ効率的に供給するための移動式充填設備（バルクローリー）、各種高圧ガスの貯蔵容器を製造している。また、ごみ収集車（塵芥収集車）として、圧縮・減容機能を備えたパッカー車やチッピングロータリー車、移動式廃車プレス車など、多様な機能を備えた車輌を製造している。

■LPG バルクローリー

■チッピングロータリー

■移動式廃車プレス車

［出所：富士車輌ウェブサイト］

（２）サステナビリティ

富士車輌は、経営理念の実現が自社の企業価値向上と豊かな社会創造につながり、ひいては世の中のサステナビリティに貢献できると考えている。近年、企業は気候変動対策や働き方改革など様々な環境・社会課題への対応が求められている。こうした背景のもと、自社の事業活動がSDGs に貢献することを認識し、経営リスクの低減と社会的責任の両立を目指すべく、2020 年 4 月に SDGs 取組宣言を公表した。同宣言では、経営ビジョンとリンクした「社会やお客さまと共に成長し、リサイクル分野と高圧容器で SDGs に貢献する」と「社員一人ひとりが切磋琢磨し、自己実現できる職場づくりを目指す」という 2 つのテーマを掲げている。さらに、SDGs の 17 のゴールの中から「モノづくり」に関する 6 つのゴールと、「人づくり」に関する 3 つのゴールを重点項目として選定し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進している。2021 年 4 月には、代表取締役社長を委員長とし、各部門長で構成される「SDGs 委員会」を発足した。同委員会では、四半期ごとにSDGs に関連する取り組みの進捗確認やレビュー、活動のフォローアップを実施しており、適切な運営・管理が行われている。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

（３）マテリアリティ（重要課題）

富士車輌は、TRE グループを統轄する TRE ホールディングスが特定したマテリアリティに基づき、グループ内で唯一のエンジニアリング企業としての立場を踏まえ、具体的なアクションプランとKPI・目標を設定し、各種取り組みを推進している。

TRE ホールディングスは、「地球の環境保全に貢献する」というグループミッションの実現に向け、優先的に取り組むべき 5 つのマテリアリティを特定している。この特定プロセスでは、昨今の社会的要請や環境・社会を取り巻く動向を踏まえ、課題を網羅的に抽出したうえで「TRE ホールディングスにとっての重要度」と「ステークホルダーにとっての重要度」の両面から評価を実施。その後、従業員によるワークショップと CSR アクティビティ委員会における審議を経て、最終的に取締役会にて承認されている。

■TRE ホールディングスのマテリアリティ

① 高度循環型社会の実現

廃棄物処理・リサイクル事業の強みとノウハウを活かし、排出事業者の高度化する再資源化ニーズへ適正かつ的確に対応することを目指します。

② 脱炭素社会の実現

再生可能エネルギーの創出ならびに事業から排出される温室効果ガス（CO_2）を削減する。また、環境機器や技術の提供を通じて、社会全体の脱炭素化に貢献することを目指します。

③ 働きやすい・働きがいのある職場環境整備

多様な人材がいきいきと安心して働ける、また一人ひとりが最大限の能力を発揮できる職場環境を実現することを目指します。

④ コーポレート・ガバナンス体制強化

サステナビリティ経営を推進するため、コンプライアンスをはじめ、健全で透明性の高いガバナンス体制を徹底する。

⑤ 「総合環境企業」としてのブランド・認知度向上

お客様／取引先／株主／投資家から信頼され、お取引いただけるような取り組みの推進および情報発信を行う。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

2. インパクトの特定

（１）包括的分析によるインパクトの特定プロセス

当行は所定の「インパクトファイナンス実施体系」に定める包括的分析により、インパクトの特定手続きを実施した。なお、特定にあたっての重要な要素に関しては、その裏付けとなる内部資料等の確認および企業との対話の実施により手続きを補完することとしている。

（２）富士車輌における分析

当行は、同社のサステナビリティや重要課題への取り組みは、インパクトを持続的に発現させるためのキーファクターになると考えており、インパクト特定プロセスにおいてもこれを尊重して分析を行っている。

① **事業性評価**

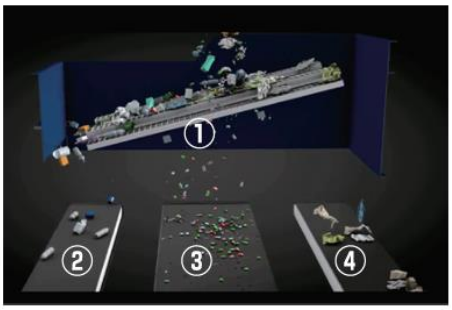
富士車輌の強みは、多様化・高度化するリサイクルニーズに対応可能な「環境機器・リサイクルプラントの優れた設計力」にある。自社の開発力と海外技術の融合、実証設備を活用することで、実用性と信頼性を兼ね備えたオーダーメイド型のリサイクルスキームの設計を実現している。

同社は、限られた経営資源を効率的に活用するため、破砕機やスクラップ機器の開発・製造に経営資源を集中的に投入している。近年、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行が進む中、質の高いリサイクルの重要性が高まっており、その実現にはリサイクル原料となる廃棄物の単一素材への選別が鍵となる。選別効率や分離精度を向上させるためには、前工程で廃棄物を適切な大きさに細分化する破砕処理が極めて重要となり、特に複合素材や大型廃棄物の処理においては、破砕精度がリサイクル全体の品質を左右する要素となる。同社には、豊富な経験とノウハウを有するエンジニアが在籍し、設計から製造までを一貫対応できる体制を整備することで、処理対象や工程に応じた高性能な破砕機の開発に注力している。

また、環境分野における先進地域で技術力の高い欧州トップメーカーとのネットワークを活用し、最新鋭の技術を搭載した選別機を導入している点も特徴の一つである。例えば、カメラや光センサーを用いて対象物を選別する光学選別機では、世界的なシェアを誇る TOMRA 社（ノルウェー）の機器を採用している。さらに、振動と風力を組み合わせた選別技術を有する JOST 社（ドイツ）や、廃棄物を形状や重量等の物理的特性に基づき選別するバリスティックセパレーターで評価の高い STADLER 社（ドイツ）の機器も取り扱っている。3 社とは国内で販売提携を結んでおり、グローバル水準の高度な選別技術を取り入れることで、選別工程における多様なニーズに応じた提案が可能となり、リサイクルプラント全体の高度な設計にも反映されている。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

■バリスティックセパレーター



① 処理対象材料
② 3D（重量があり転がるもの）
③ 細粒物
④ 2D（軽く平らなもの）

［出所：富士車輌ウェブサイト］

設備面においては、前述の特徴を効果的に活かし、自社の開発・提案力の強化を目的として、2015 年に本社敷地内にリサイクルテストセンターを開設している。このテストセンターでは、実際の処理物（サンプル）を用いて、破砕・選別・搬送などの各工程を再現し、再資源化までの一連のプロセスの検証を行っている。独自開発した破砕機や欧州メーカーの選別機も常設されており、実際の稼働状況を直接確認してもらいながら、最適な処理フローや設備構成を顧客ニーズに合わせて共同で検討している。このテスト工程で得られた処理データは蓄積・分析し、新たな研究開発にも役立てられている。これらを基盤として蓄積された経験・ノウハウがさらなる技術の高度化を促進し、そのサイクルを継続的に回すことで、最先端のリサイクル技術の創出へとつなげている。

さらに、同社は高度な設計力を駆使した機器やプラントそのものの価値に加え、接客からアフターサポートまでを含む一連の顧客体験価値（CX）を重視している。国内主要都市である東京・大阪・名古屋・福岡に支店・営業所を設置し、迅速かつきめ細やかなサポート体制を整備している。安定稼働と最適な運用を目指し、遠隔監視による予防保全にも積極的に取り組み、製品導入後のメンテナンスや技術的な相談にもスピーディかつ柔軟に対応している。技術力とサービス力を両輪に CX の最大化に努めており、こうして築き上げられてきた顧客との長期的な信頼関係が、同社の事業基盤を支えている。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

② インプット、アウトプットの見える化

先述の事業性評価をもとに富士車輌のバリューチェーンを分析することで、事業活動におけるインプット（投入物）とアウトプット（成果物）を以下の通り可視化し、各活動が貢献する SDGs のゴールとターゲットとの関連付けを行った。

■バリューチェーンによるインプットとアウトプットの見える化

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

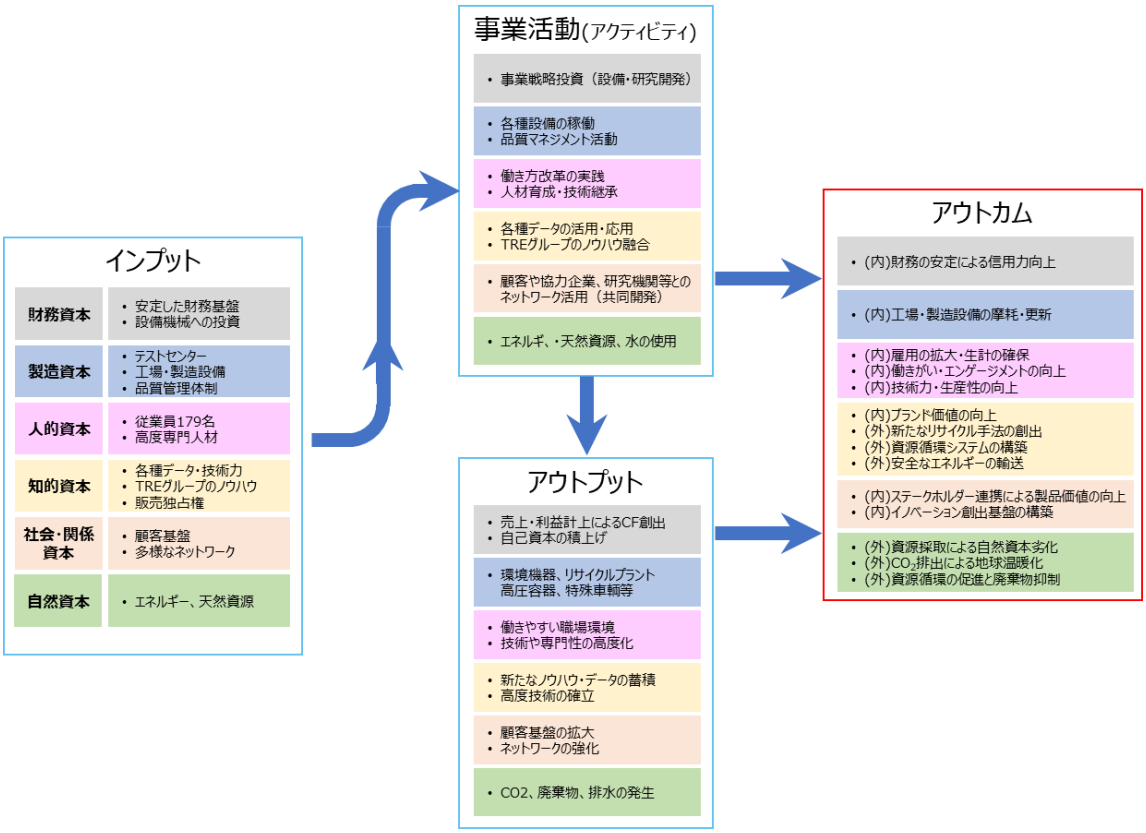
③ **ロジックモデルの作成**

これまでの分析を踏まえ、ロジックモデルを作成しインパクトを特定する。なお、ロジックモデルとは事業活動（アクティビティ）を通じて、投入(インプット)した資本から製品、サービス、副産物、廃棄物を産出（アウトプット）したり、利益の蓄積、労働意欲の増減、地域の活性化などの影響（アウトカム）を与えたりするシステム（ビジネスモデル）の中で、資本がどのように変化（増減、変換）するのかについて因果関係を明らかにして図表として可視化したものである。

このモデルの中で資本の増減、変換が生じる部分がアウトカムであり、当行はこれをインパクトと位置づけ、正の変化をポジティブインパクト、負の変化をネガティブインパクトとして特定する。

同社の事業が 6 つの資本に与える影響を示したロジックモデルは以下の通りである。

■ロジックモデル



Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

ロジックモデルにより導き出した同社の主要なインパクトは以下の通りである。

リサイクル機器メーカーのパイオニアとして培ってきたノウハウや技術力、国内外のネットワークを活用し、高性能機器の開発や新たなリサイクル手法を創出している。資源循環システムの構築を通じて、資源の有効活用や廃棄物の削減を促進し、自然資本への悪影響を抑制していることから、インパクト領域「循環型社会への貢献」と特定した。

車輌事業では、LPG やアンモニアの高圧容器およびタンクローリーの供給を通じて、クリーンエネルギーの安全・効率的かつ安定した供給体制の構築を支えている。これにより、人々の暮らしや産業活動の基盤として社会・経済の持続的な発展にも貢献していることから、インパクト領域「安全な次世代エネルギー輸送の実現」と特定した。

同社では、外部環境の変化に伴い、顧客ニーズが多様化・高度化する中で、顧客、協力企業、研究機関との連携を積極的に進めている。多様なステークホルダーとの協働を通じて、新たなネットワークの構築や技術力の向上を図り、イノベーションの創出につなげている。高付加価値製品の開発や社会全体の仕組みづくりに取り組み、事業活動によるインパクト拡大を目指していることから、インパクト領域「ステークホルダーとの共創」と特定した。

「人づくり」においては、社員の能力開発や働き方改革などを推進し、個々の自己実現を支援する職場環境の整備を図り、社員の働きがいやモチベーション向上へとつなげている。人的資本や知的資本が強化されることで、他のインパクト領域にも好影響をもたらし、社員一人ひとりの心身の充実にも寄与することから、インパクト領域「ウェルビーイングの実現」と特定した。

また、自社の事業活動における自然資本への悪影響を低減するため、電力消費量やスクラップ廃棄物の削減に取り組んでおり、これをインパクト領域「環境負荷の低減」と特定した。

以下はそれぞれのインパクトにおけるポジティブインパクト（PI）とネガティブインパクト（NI）の区分のほか、UNEP FI のインパクトレーダーにて該当するインパクトエリア・トピックを示したものである。

■特定したインパクトの整理

PI・NI 区分	アウトカム	インパクト領域	UNEP FIの インパクトエリア・トピック
PIの増大	・新たなリサイクル手法の創出 ・資源循環システムの構築 ・資源循環の促進および廃棄物の抑制	**循環型社会への貢献**	＜社会経済＞零細・中小企業の繁栄 ＜自然環境＞資源強度、廃棄物
PIの増大	・安全なエネルギーの輸送	**安全な次世代エネルギー輸送の実現**	＜社会＞エネルギー、移動手段 ＜社会経済＞インフラ ＜自然環境＞気候の安定性
PIの増大	・ステークホルダー連携による製品価値の向上 ・イノベーション創出基盤の構築	**ステークホルダーとの共創**	＜自然環境＞資源強度、廃棄物
PIの増大 NIの抑制	・雇用の拡大・生計の確保 ・働きがい・エンゲージメントの向上 ・技術力・生産性の向上	**ウェルビーイングの実現**	＜社会＞健康と安全性、雇用、賃金
NIの抑制	・資源採取による自然資本劣化 ・CO_2排出による地球温暖化	**環境負荷の低減**	＜自然環境＞気候の安定性、大気、土壌、資源強度、廃棄物

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

④インパクトレーダー等の活用

ロジックモデルにより特定したインパクトに関し、国際目線によるツールとの整合性を確認する。同社の事業活動に該当している 3 つの業種を特定してインパクトレーダーを使用した。

下図は、ロジックモデルで特定したインパクトエリア・トピックと同社の 3 つの該当業種が示すインパクトレーダーによるインパクトエリア・トピックにおいて、ポジティブインパクト(PI)とネガティブインパクト(NI)がどのインパクトエリア・トピックにおいて発現すると考えられるかを示したものである。

ロジックモデルにより特定したインパクトエリア・トピックは、概ねインパクトレーダーで示されたものと一致しており、客観的に妥当性を有していると判断できる。ロジックモデルにおいて特定したインパクトエリア・トピックのうち、インパクトレーダーに該当しないのは「エネルギー」「気候の安定性」「資源強度」「廃棄物」である。これらの項目は、業種特性に基づくものではなく、同社固有の事業活動を踏まえて特定したものである。同社が供給する環境機器、リサイクルプラント、LPG やアンモニア用のタンクローリーは、いずれも川下に位置する事業のインパクト発現を支えていることから、ロジックモデルではそれぞれをポジティブインパクトとして特定する。

一方、インパクトレーダーで該当しながらロジックモデルで特定しなかった「社会的保護」については、同社事業との関連性が低いため、ネガティブインパクトから除外する。

■インパクトマッピングによる特定

＜環境・リサイクル事業＞

●●主要インパクトトピック　●関連インパクトトピック

			ロジックモデルによる特定		川上の事業【2410】第一次鉄鋼製造業		同社の事業【2829】その他の特殊産業用機械製造業		川下の事業【3821】非有害廃棄物処理・処分業	
三側面	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の安全保障	紛争								
		現代奴隷								
		児童労働								
		データプライバシー								
		自然災害								
	健康と安全性			★		●		●		●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス性、手頃さ、品質	水							●	
		食糧								
		エネルギー							●	
		住居			●					
		健康と衛生							●●	
		教育								
		移動手段								
		情報								
		コネクティビティ								
		文化と伝統								
		金融								
	生計	雇用	★	★	●		●	●●	●	
		賃金	★	★	●	●●	●	●●	●	●
		社会的保護				●		●●		●
	平等と正義	ジェンダー平等								
		民族・人権の平等								
		年齢による差別								
		その他の社会的弱者								
社会経済	強固な制度、平和、安定	法の支配								
		市民的自由								
	健全な経済	セクターの多様性								
		零細・中小企業の繁栄	★				●		●	
	インフラ				●●					
	経済収束									
自然環境	気候の安定性			★		●●		●		●
	生物多様性と生態系	水域		★		●●		●	●●	●●
		大気		★		●		●	●●	●
		土壌							●●	●
		生物種							●●	●
		生息地							●●	●
	サーキュラリティ	資源強度	★	★		●●		●●	●	●
		廃棄物	★	★		●		●	●●	●

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

＜車輌事業＞

●●主要インパクトトピック　●関連インパクトトピック

			ロジックモデルによる特定		川上の事業		同社の事業				川下の事業	
					【2410】		【2512】		【3099】		【4661】	
					第一次鉄鋼製造業		金属製タンク、貯槽及び容器製造業		他に分類されないその他の輸送用機械器具製造業		固形・液体・ガス燃料及び関連製品卸売業	
三側面	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の安全保障	紛争										
		現代奴隷										
		児童労働										
		データプライバシー										
		自然災害										
	健康と安全性			★		●		●		●		●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス性、手頃さ、品質	水										
		食糧										
		エネルギー	★								●	
		住居			●							
		健康と衛生										
		教育										
		移動手段	★						●●			
		情報										
		コネクティビティ										
		文化と伝統										
		金融										
	生計	雇用	★		●		●		●		●	
		賃金	★	★	●	●●	●	●●	●	●●	●	
		社会的保護				●		●		●		●
	平等と正義	ジェンダー平等										
		民族・人権の平等										
		年齢による差別										
		その他の社会的弱者										
社会経済	強固な制度、平和、安定	法の支配										
		市民的自由										
	健全な経済	セクターの多様性										
		零細・中小企業の繁栄							●		●	
	インフラ		★		●●		●●				●	
	経済収束											
自然環境	気候の安定性		★	★		●●		●		●	●	
	生物多様性と生態系	水域		★		●●		●●		●	●	
		大気		★		●		●		●	●	
		土壌										●
		生物種										●
		生息地										●
	サーキュラリティ	資源強度		★		●●		●●	●	●●		
		廃棄物		★		●		●		●	●	

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

（３）特定したインパクト領域

以下より、特定したポジティブインパクトとネガティブインパクトの内容について記載する。

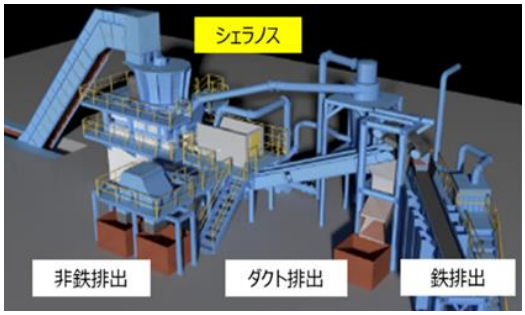
●循環型社会への貢献

富士車輌は、経営理念として掲げる「資源循環型社会の発展への貢献」を、企業活動の根幹に据えている。廃棄物問題や資源枯渇といった地球規模の課題に対し、自社の技術と製品によって解決へと導くことを果たすべき重要な役割と捉え、環境機器やリサイクルプラントの供給を通じて、持続可能な資源循環システムの構築に取り組んでいる。

国内では、2022 年に「プラスチック資源循環促進法」が施行され、プラスチックの削減・再利用・再資源化を包括的に推進する体制が整備された。この法律は、製品の設計から廃棄・再資源化に至るまでライフサイクル全体における資源循環の促進を目的とし、企業には環境配慮型設計や使い捨てプラスチックの削減、使用済みプラスチックの分別回収および再資源化の体制整備が求められている。これに伴い、再生プラスチックの活用や処理技術への投資が加速し、循環型社会への移行が本格化している。

同社は、こうした資源循環の流れに対応し、産業廃棄物やリサイクル用途に応じた多種多様な破砕機、選別機、固形燃料（RPF）製造機器の供給やリサイクルプラント全体のプランニングにより、難処理物にも対応できる最適なリサイクルスキームの構築を支援している。これまでに全国の自治体や民間企業へ数多くの設備の納入実績を有し、2025 年 4 月に本格稼働した J&T 環境や JR 東日本などが共同出資する株式会社 J サーキュラーシステムが川崎市に建設した国内最大級のプラスチックリサイクル施設では、プラントエンジニアリング（設計・製作・施工）として建設計画段階から参画し、同社の技術と各種機器が採用されている。

■リサイクルプラントの導入例



［出所：富士車輌から提供］

また、近年では世界的なカーボンニュートラルの動向を背景に、鉄スクラップ処理機器の需要も増加傾向にある。製鉄業界では、CO_2排出量の削減を目的に、従来の高炉から電炉への転換が進められており、電炉の主原料である鉄スクラップの重要性が一段と高まっている。特に自動車や建材分野で使用される高品質鋼材の製造には、高品位なスクラップの確保が重要な課題であり、

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

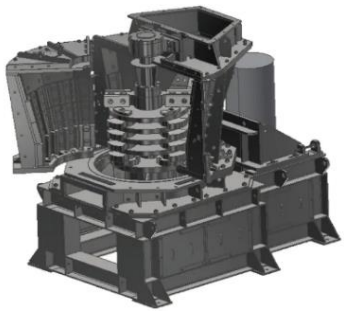
高度な破砕・選別技術およびそれに対応した関連設備へのニーズが高まっている。

このようなニーズに対しては、スクラップシャー（切断機）・ベーラー（圧縮機）・シュレッダー（破砕機）に加え、ミックスメタルやスクリーンアンダー材[1]にも対応可能な光学選別機や比重差選別機を幅広く供給している。鉄スクラップの高精度な処理技術により再資源化を支え、スクラップ業者向けのリサイクル機器の設置台数において、同社は業界トップクラスのシェアを有している。

廃棄物の再資源化が進む一方で、産業廃棄物処理業界では労働力不足が深刻化し、省人化・自動化による生産性向上が課題となっている。こうした課題に対応するため、高効率機器の開発に取り組んでおり、その代表例が雑品破砕機「Fine Shredder SHERANOS（シェラノス）」である。電子機器など多様な素材が混在する雑品スクラップは、複雑な選別工程を要するため、鉄・非鉄金属・プラスチックを高精度に分離・破砕するシュレッダーへのニーズの高まりを受けて開発が行われた。主な特徴として、「①高速回転型スイングハンマー方式」、「②オープンシェル構造[2]」、「③正逆回転機能」、「④粒度調整の自動化」がある。これらの設計・機能により、破砕能力や操作性の向上に加え、メンテナンスの容易化と部品の長寿命化により生産性向上と安定稼働に貢献している。また、これまで処理困難物とされてきた小型黒モーター[3]の破砕・選別処理を業界で初めて実現している。

同社は、産業廃棄物のリサイクルプラントから鉄スクラップのシュレッディングプラント、雑品処理まで幅広い領域を総合的にカバーしており、リサイクルインフラの中核を担う存在として、業界内外から高く評価されている。

■雑品破砕機「Fine Shredder SHERANOS（シェラノス）」



［出所：富士車輌のウェブサイト］

今後、世界的には急速な人口増加や都市化の影響で、2050 年には廃棄物の発生量が現在の約 1.5 倍となる 34 億トンに達するとの試算がある。このような状況を受けて、資源を持続可能な形で活用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行が国際的な潮流となっている。こうした流れの中で、同社の環境機器・リサイクルプラントは、最先端の破砕・選別技術を駆使し、廃棄物の再生プロセスを最適化することで、資源循環の質的向上と廃棄物の減容に大きく貢献する。

---

1 破砕工程で発生する細かい金属片や不純物の混合物

2 機械や装置の構造設計において、外装（＝シェル）を開放的な形状にすることで、内部へのアクセス性を高めた構造を指す

3 主にエアコンや冷蔵庫などの冷却装置に使われるコンプレッサーのこと

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーで「零細・中小企業の繁栄」「資源強度」「廃棄物」に該当し、SDGs では、「9.4」「11.6,11.b」「12.2,12.5」「14.1」「15.1」のターゲットに影響を与えると考えられる。

●安全な次世代エネルギー輸送の実現

富士車輌は、1953 年に圧力容器の製造を開始して以来、国内初の商用タンクローリーの開発を契機に、業界のフロントランナーとして LPG を中心とした高圧ガスの安全かつ安定した輸送を支え続けている。現在、同社の LPG ローリーは国内市場で約 4 割のシェアを占めている。

LPG は国内の最終エネルギー消費の約 5%を占め、家庭用から産業用、非常用まで幅広く使用されるエネルギー源である。また、石炭や重油に比べて CO_2排出量が少なく、比較的クリーンな燃料であることから脱炭素社会への移行期において有効なエネルギーとして位置づけられている。

こうした LPG の輸送に用いられる高圧ガス容器の製造には、ガスの種類に応じて容器の大きさや板厚が異なるため、個別の設計・加工が求められる。そのため、溶接工程の多くは熟練工による手作業で行われているが、近年では生産性向上を目的として、自動溶接機の導入も進めている。溶接後には大型専用炉で「焼鈍」と呼ばれる熱処理を施し、最終検査では高圧ガス保安法などの法的規格に基づき、第三者機関による厳格な検査が実施されている。同社は、長年にわたる技術の蓄積と豊富な実績を背景に、これらの工程を一貫対応できる体制を構築し、業界内で確固たる地位を築いている。

■製造現場・自動溶接機

［出所：富士車輌から提供］

また、脱炭素社会の実現に向けた次世代エネルギーとして注目されるアンモニアの輸送・貯蔵タンクの製造にも取り組んでいる。アンモニアは、燃焼時に CO_2を排出しないクリーンエネルギーの一つとして期待されている。今後、国内において需要の拡大が見込まれており、特に発電用途を中心に、2030 年には年間 300 万トン、2050 年には 3,000 万トン規模に達すると予測されている。

アンモニアは有毒性や腐食性を有するため、タンクの製造においては品質と安全性に対する要求水準は高く、耐食性に優れた材料の選定や漏洩を防ぐ高度な加工技術が求められる。同社は、LPG ローリー製造で培った技術を活かし、すでに技術的課題をクリアしており、2024 年までにアンモニアローリーを累計 6 台販売している。将来的な需要の拡大に向けて、輸送・貯蔵の大規模化と高効率化が不可欠であり、容量を約 3 割増加させた新型タンクローリーの開発にも着手している。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

さらに、国内におけるアンモニアローリー仕様基準を策定するワーキンググループに参画しており、ルールメイキングの段階から関与することで、自社の技術的知見を反映させるとともに、業界動向をいち早く把握し、自社製品の競争力向上や将来的な規制対応に伴うリスク低減につなげる体制を構築している。

■アンモニアタンクローリー

［出所：富士車輌のウェブサイト］

同社は、高い専門性と信頼を基盤に、LPG をはじめとする高圧ガスの安全かつ安定的な供給を支えるとともに、脱炭素社会の実現に貢献する次世代エネルギーの導入・普及に向けた輸送インフラの整備にも積極的に取り組んでおり、社会的意義の高い役割を果たしている。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーで「エネルギー」「移動手段」「インフラ」「気候の安定性」に該当し、SDGs では、「7.1,7.a」「9.1、9.4」「11.b」「13.1」のターゲットに影響を与えると考えられる。

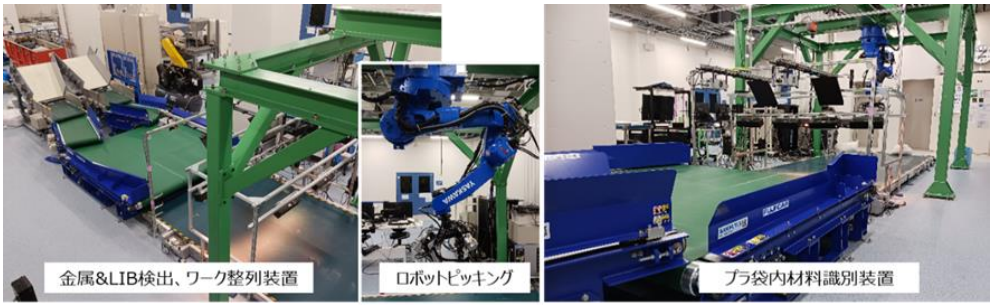
●ステークホルダーとの共創

リサイクルを取り巻く社会的要請は年々高まっており、単なる廃棄物の処理にとどまらず、資源を循環させる持続可能な社会システムの構築が求められている。こうした状況の中で、顧客ニーズも素材の多様化、処理の高効率化、省エネルギー化など、より高度かつ複雑なものへと変化している。これらのニーズに対応した製品を開発するには、自社のノウハウや技術力に加え、顧客、協力企業、研究機関等との密接な連携が不可欠になるため、同社は多様なステークホルダーとの共創を通じて、リサイクル分野における社会的インパクトの最大化を目指している。

その具体的な取り組みの一例として、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の研究開発プロジェクトへの参画が挙げられる。本プロジェクトでは、AIST（国立研究開発法人産業技術総合研究所）などと連携し、高度選別システムの開発に取り組んだ。本研究では、廃棄されたプラスチック袋や小型のプラスチックを破袋・破砕せずに選別することで、従来の 3 倍の処理速度による自動選別の実現を目指した。同社は、プラスチック袋や小型プラスチックを投入し、金属混入物を除去するとともに、ロボットによる選別（ピッキング）が容易になるよう順次整列させる高度選別前処理装置の研究開発を担当した。本プロジェクトにおける研究開発は、計画通り順調に進展し、高度選別技術の実用化に向けた成果を上げている。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

■高度選別前処理装置



［出所：富士車輌から提供］

TRE グループ全体でも技術力やノウハウ、ネットワークなどのリソースを結集し、大規模かつ効率的な資源の循環利用を目指した「TRE 環境複合事業」構想が進められている。千葉県市原市では、総面積 11 万㎡を超える広大な用地を活用し、「産業廃棄物破砕選別・再資源化」「廃棄物焼却・発電」「金属資源高度選別」「廃プラスチック高度選別・再商品化」の 4 つの事業化が計画されている。同社は、廃棄物やリサイクル資源を材質・形状・用途などに応じて選別する「ソーティングセンター」のプロジェクトに関与し、グループのシナジーを活かしながら先進的なリサイクル技術の確立と高度な資源循環システムの構築に取り組んでいる。

今後、資源循環システムの発展に向けては、製品開発の高度化と並行して、社会全体での仕組みづくりが不可欠であり、その実現には産学官を含む多様なステークホルダーとの連携が極めて重要になるといえる。こうした取り組みは、資源の有効活用と環境負荷の低減を促進し、持続可能な社会の形成に向けた環境・社会へのインパクトの拡大にも大きく貢献することが期待される。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーで「資源強度」「廃棄物」に該当し、SDGs では、「9.4」「11.6,」「12.2,12.5」「13.1」「14.1」「15.1」「17.16,17.17」のターゲットに影響を与えると考えられる。

●ウェルビーイングの実現

富士車輌は、企業の持続的成長と社員一人ひとりの自己実現の両立を図るため、「相互成長・相互発展型の長期雇用」の実現を人事戦略の中核に据えている。これは単なる雇用の安定ではなく、企業と社員の双方が一定の緊張感と信頼関係を保ちながら、共に成長し続けられる関係性の構築を目指すものである。

こうした関係性の実現に向けて、社員一人ひとりが主体的に職場環境や業務の改善に取り組む仕組みづくりに力を入れており、2019 年から全社員参加型の職場改善活動「6S3T 活動」を開始している。6S（整理・整頓・整備・清掃・清潔・躾）と 3T（定品・定量・定置）を基本に、3ヵ月ごとに約 20 チームが改善提案を発表しているほか、社員一人ひとりが提案を行う「改善実施メモ」を展開している。これまでに実施された改善例として、安全表示・ラベルの改善、物品発注の手順標準化などが行われた。この活動を通じて、安全性の向上、作業の効率化、ミスや不良の削減などの効果が生ま

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

れており、2023 年度には通期で労働災害ゼロを達成している。社員が主体的に現場改善に取り組むことで、組織全体の意識が高まり、安心して働ける職場づくりを推進している。その結果、社員の働きがいや達成感の向上にもつながっているものと考えられる。

■改善提案発表の様子

［出所：富士車輌から提供］

2022 年以降、改善テーマの約半数がデジタルデータや技術に関するものとなったことを背景に、6S3T 活動を深化させた「DX 戦略」を展開している。2023 年までの期間を第 1 フェーズと位置づけ、手順書や図面、各種資料のデジタル化、報告・決裁業務の電子化、さらには IoT・AI・AR といった先端技術の導入を通じて、社内業務の在り方そのものの変革に取り組んだ。

2024 年以降の第 2 フェーズでは、熟練技術者の暗黙知をデータ化し、若手作業員を遠隔支援する「DX 技能伝承システム」の構築を進めている。このシステムでは、リサイクルプラントや機器の点検・保守作業において、熟練者の判断や経験をデータとして蓄積・分析し、現場にいる若手作業員からの問い合わせに対して、適切な指導や関連資料の配信による遠隔支援を可能にしている。これにより、若手のスキル向上とベテランの負担軽減を両立し、作業の生産性・安全性・信頼性の向上に寄与している。なお、この取り組みは滋賀県の「近未来技術実装支援事業」に採択されており、先進的な取り組みとして社外からも高く評価されている。

また、DX を活用した人材育成の取り組みに加え、制度面からも社員の働きがいやキャリア形成を支援すべく、人事制度の見直しにも取り組んでいる。2025 年 4 月には、経営環境や人事施策の変化に対応するために、人事制度の再構築を実施した。企業にとって必要な人材の流出は大きな損失であるとの認識のもと、リテンション（人材の定着と活躍）を重視し、制度の強化を図っている。具体的には、管理監督者の役割の明確化や適正な処遇、総合職と専任職の運用の適正化など、多様な働き方やキャリア志向に対応した柔軟な制度設計を進めることで、社員のモチベーション向上とキャリア形成の支援につなげている。

こうした取り組みは、社員の安心・安全な職場環境の整備だけでなく、自己効力感や達成感の醸成を通じて、心身の健康やキャリアの充実にも寄与している。企業と社員が相互に成長し合える関係性の構築は、組織の活力を高めるとともに、持続可能な社会形成にも貢献すると考えられる。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーで「健康と安全性」「雇用」「賃金」に該当し、SDGs では、「3.4」「5.b」「8.2,8.5,8.8」「10.2」のターゲットに影響を与えると考えられる。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

●環境負荷の低減

富士車輌は、環境貢献企業としての社会的責任を強く認識し、自社の製造プロセスにおける環境負荷の低減を重要な経営課題の一つと位置づけ、全社的に省エネルギーや廃棄物の抑制に向けた取り組みを積極的に推進している。

省エネルギーに関する取り組みでは、工場や事務所の照明の LED 化、エアコンの更新を順次進めているほか、工場内のコンプレッサーを定量出力方式から使用量に応じて出力が調整できるインバータ方式への更新を実施している。廃棄物の抑制に関しては、プラスチック廃棄量の削減を目的に、取引先に対して納入荷物に使用する緩衝材の削減を依頼するなど、サプライチェーン全体での環境配慮に取り組んでいる。また、社内では紙使用量の削減を図るため、2in1 印刷や両面印刷の推奨、リサイクル紙の活用などの取り組みを展開し、廃棄物の分別表や廃棄場所の明示、プリンタやコピー機の付近には紙使用削減を促すポスターを掲示するなど、日常業務の中で環境に配慮した行動の意識づけを行っている。

同社は、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」を取得し、環境への影響を継続的に管理・改善するための社内体制を整備している。省エネルギーや廃棄物の抑制に関する具体的な KPI・目標を設定し、PDCA サイクルを回すことで着実に改善を図っている。

このインパクトは、UNEP FI のインパクトレーダーで「気候の安定性」「大気」「土壌」「廃棄物」に該当し、SDGs では、「7.3」「12.2,12.5」「13.1」「14.1」「15.1」のターゲットに影響を与えると考えられる。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

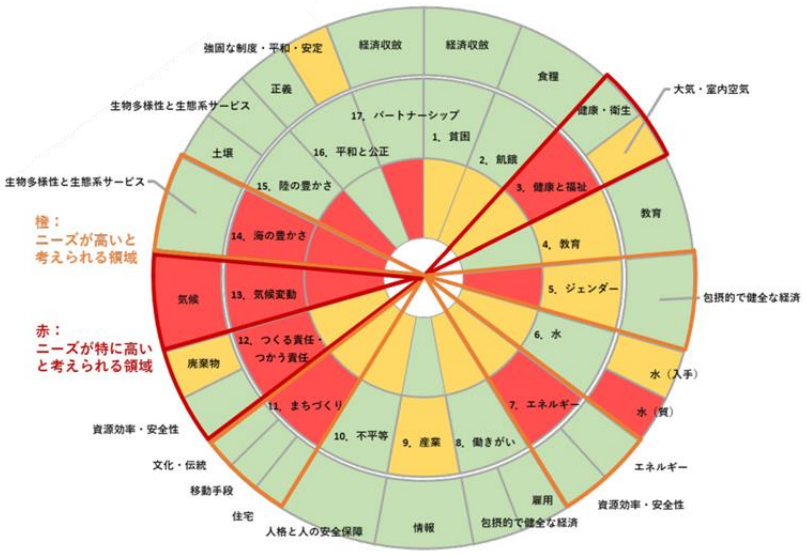
（４）インパクトニーズとの関係性

特定したインパクトとインパクトエリア・トピックおよび SDGs との対応関係について記載してきたが、ここではインパクトの重要度を検証するにあたり、同社の事業活動エリアにおけるインパクトニーズとの関係を確認する。

① 国内におけるインパクトニーズ

下図の同心円の最内層と中間層の色区分は、日本が特に取り組むべき SDGs を赤色、取り組むべきであるが不十分な SDGs を黄色、その他を緑色としているものである。特定したインパクトと対応する SDGs「3、5、7、8、9、10、11、12、13、14、15、17」との整合性を確認したところ、すべて赤色もしくは黄色のゴールに該当している。したがって、同社のインパクトは国内ニーズとの関連性があり、客観的にも重要度が高いものであると考えられる。なお、同社の事業活動は国内に限定されることから海外におけるインパクトニーズは確認しないこととする。

■国内のインパクトニーズマップ



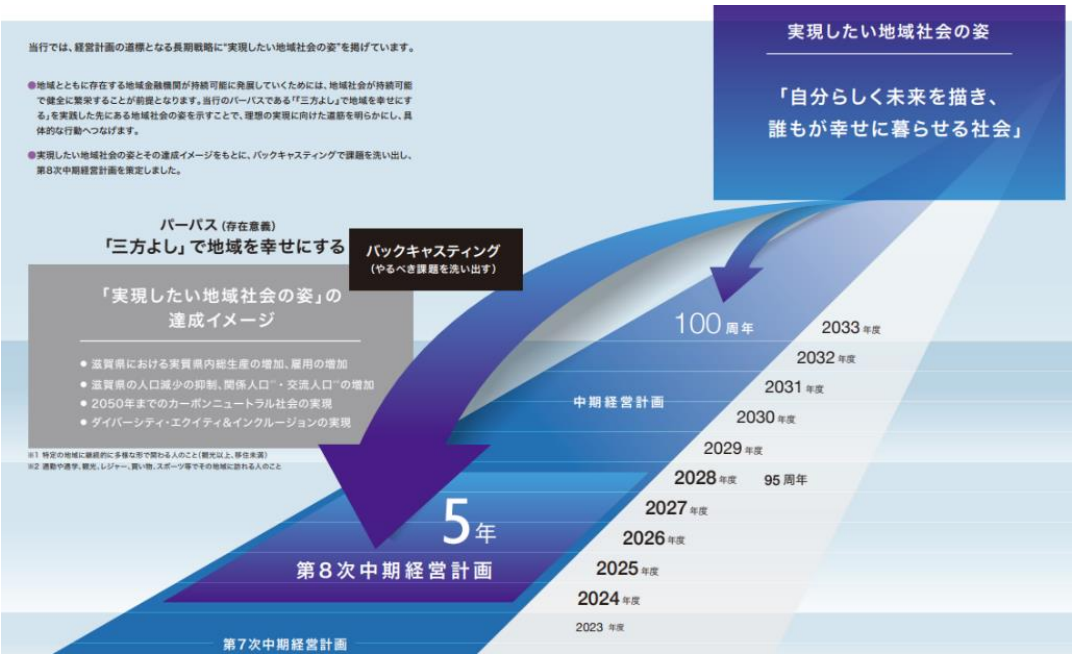
［出所：「インパクトファイナンスの基本的考え方」］

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

（５）本 PIF に対する当行の意図

これまでのインパクト分析結果を踏まえ、当行が本 PIF を通じて、その実現を意図しているのは「循環型社会への貢献」、「安全な次世代エネルギー輸送の実現」である。

当行は、滋賀銀行グループのパーパス『「三方よし」で地域を幸せにする』のもと、経営計画の道標となるサステナビリティ戦略（長期戦略）に実現したい地域社会の姿として、「自分らしく未来を描き、誰もが幸せに暮らせる社会」を掲げている。この実現に向け、2024 年度にスタートした第 8 次中期経営計画では、経済・環境・人の側面を踏まえた 14 のマテリアリティを特定し、地域を幸せにする好循環を生み出すための取り組みを推進している。



［出所：滋賀銀行の第 8 次中期経営計画書］

富士車輌は、環境機器・リサイクルプラントの供給を通じて、廃棄物の再資源化による有効利用を促進し、循環型社会に貢献することを目指している。これは、資源採取や廃棄物の発生を抑制するだけでなく、生態系への悪影響の軽減にもつながり、当行がマテリアリティの一つに特定する「生物多様性」の保全にも貢献していると考えられる。

また、LPG、アンモニアといったエネルギーの輸送・貯蔵インフラの整備は、社会基盤として人々の生活や産業活動を支える重要な要素であり、豊かな暮らしの実現や地域の発展には不可欠である。さらに、持続可能な資源の活用やクリーンエネルギーの普及を支える取り組みは、間接的に脱炭素社会の形成にも貢献しており、経済の活性化と地球環境との共生に資するこれらの活動は、当行の目指すべき方向性とも合致している。

同社の事業活動は、地域経済および社会の持続的な発展に貢献するものと考えられる。当行は本 PIF を通じた資金供給とモニタリングによる継続的なエンゲージメントを通じて、環境・社会・経済の三側面におけるインパクトの創出・増大を支援することを意図している。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

3.インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況をファイナンス後に測定可能なものとするため、特定したポジティブインパクトの創出可能性、および重大なネガティブインパクトの抑制・管理が適切になされるかを事前に評価する。加えて、先に特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

●循環型社会への貢献

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面におけるポジティブインパクトの増大
インパクトエリア トピック	＜自然環境＞資源強度、廃棄物
関連する SDGs	
内容・対応方針	高度な技術開発を通じた機能性・効率性に優れた環境機器の供給による多様なリサイクルニーズへの対応
KPI と目標	【KPI】 環境機器・リサイクルプラントにおける新規販売台数・大規模改修台数 【目標】 2025 年度から 5 年間で合計 135 台 （対象） 廃棄物処理装置、破砕機、シュレッダー、プレス、スクラップシャー ※大規模改修は 30 百万円以上で受託する案件とする （過去実績） 過去 3 年間（2022～2024 年度）の平均：22 台

循環型社会への貢献に対するインパクトを測定する KPI として、「環境機器・リサイクルプラントにおける新規販売台数・大規模改修台数」を設定し、今後 5 年間で合計 135 台を目標に掲げる。

同社は、業界のパイオニアとして多様化・高度化するリサイクルニーズに対応した機器やプラントを供給する重要な役割を担っている。今後は、省エネルギー・省人化・高度な選別といった機能が差別化の鍵になると考えており、画像認識などによる高度選別、破砕機の駆動強化に加え、新たな社会ニーズへの対応としてリチウムイオンバッテリーの自動処理対応にも取り組む方針である。“製品をつくる”から“事業をつくる”へと発想を転換し、顧客に対して広範囲なトータルソリューションを提供していくことを目指している。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

なお、今後のリサイクル需要の拡大に伴い、設備の稼働率が向上することで、メンテナンスの重要性が一層高まることが想定される。設備の長期的かつ安定的な稼働をサポートしていくことがCX最大化の観点からも重要と考えており、大規模改修台数もKPIに含めている。

●安全な次世代エネルギー輸送の実現

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面におけるポジティブインパクトの増大 経済的側面におけるポジティブインパクトの増大 環境的側面におけるポジティブインパクトの増大
インパクトエリア・トピック	＜　社　会　＞エネルギー、移動手段 ＜社会経済＞インフラ ＜自然環境＞気候の安定性
関連するSDGs	
内容・対応方針	ワーキンググループ参画や構成部品の統一化などに向けた対応による燃料アンモニアの輸送インフラの整備
KPIと目標	【KPI】 燃料アンモニアの輸送インフラの標準化に向けた技術開発の推進 【目標】 2028年度までに国内標準仕様の燃料アンモニアローリーを製作する ※国内標準仕様車の決定機関：JLPA（日本LPガスプラント協会）

エネルギーインフラ構築への貢献を目的としたKPIとして、「燃料アンモニアの輸送インフラの標準化に向けた技術開発の推進」を設定する。アンモニアは次世代エネルギーの一つとして普及することが期待されている。本KPIは、今後本格化する大規模流通に対応するための基盤を形成するものであり、社会的意義も高く、有用であると判断した。現状、アンモニア分野ではインフラ整備に向けた初期段階であり、定量的なインパクトの測定は困難であることから、定性的な目標設定とする。同社は、すでにアンモニアローリーの供給実績を有しているが、今後は自社製ローリーを国内標準仕様車とすることを目指し、2028年までの達成を目標に掲げる。その実現に向けては、仕様基準策定に関するワーキンググループへ参画し、業界内での知見共有や技術的課題の抽出・解決に取り組むことで、標準化に向けた議論をリードしていく方針である。さらには、自社の設計・製造ノウハウを活かし、構成部品などの統一化にも対応し、実用性と安全性を兼ね備えた仕様の確立を目指すとともに、車輌の大型化および増産体制の構築にも注力していく。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

●ステークホルダーとの共創

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面におけるポジティブインパクトの増大
インパクトエリア・トピック	＜自然環境＞資源強度、廃棄物
関連する SDGs	
内容・対応方針	ステークホルダーとの連携を通じた効率性・安全性の向上に資するリサイクル設備の開発および実用化の推進
KPI と目標	【KPI】 産業廃棄物リサイクル業者などステークホルダーとの共同開発の推進 【目標】 2026 年度までにオイルフィルターリサイクル設備の実用化に向けた試運転開始

富士車輌は、技術革新と社会的課題の解決を高次元で実現していくためには、ステークホルダーとの連携は不可欠であると考えており、ステークホルダーとの共創にかかる KPI として、「ステークホルダーとの共同開発の推進」を設定する。現在、主要顧客と共同でオイルフィルターリサイクル設備の開発および実用化に取り組んでいる。これは、自動車エンジンに使われるオイルフィルターなど、油など液状の可燃物を含む部品を自動で材料ごとに破砕・分別し、安全にリサイクルする設備である。従来は手作業で分別・処理が行われており、実現すれば国内初の事例となる。2026 年度の試運転開始をマイルストーンとして設定する。

また、埼玉大学と共同研究で「圧力容器の溶接欠陥を抑制する技術」と「環境リサイクル機器の異常を音から検知し、予知する技術」の開発にも取り組んでいる。本インパクトは、新たな技術の創出や既存技術の高度化を目的としており、これらの共同開発および実用化の進捗状況についても継続的にモニタリングしていく。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

●ウェルビーイングの実現

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面におけるポジティブインパクトの増大 社会的側面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトエリア・トピック	＜ 社 会 ＞健康と安全性、雇用
関連する SDGs	
内容・対応方針	① 継続的な職場環境の改善による働きやすい職場環境づくり ② 基礎知識の習得や意識向上を目的とした各種研修（階層別研修・安全運転研修など）の実施による職務能力向上の支援
KPI と目標	【KPI】 ① 改善実施（6S3T 活動）メモの登録件数 （※実際に改善が実施されたものを記録した件数を指す） ② 全社研修日数 【目標】 ① 2025 年度から 5 年間で 1 万件 ② 毎年 7 日以上 （過去実績） ① 過去 3 年間（2022～2024 年度）の平均：2,166 件 ② 過去 3 年間（2022～2024 年度）の平均：6 日

社員のウェルビーイング実現に向けた KPI として、「改善実施メモの登録件数」と「全社研修日数」を設定し、それぞれ今後 5 年間で「1 万件」「毎年 7 日以上」の目標を掲げる。

改善実施メモの登録件数は、社員が現場の課題や気づきを主体的に提案・共有することにより、エンゲージメントが高まり、働きがいの向上につながる取り組みである。実際に、提案内容が職場環境の改善に結びつくことで、作業負担の軽減や安全性の向上といった効果が表れており、同社はこれを継続的に推進することで、より働きやすく、心理的安全性の高い職場づくりを目指していく。

全社研修においては、新入社員や新任管理職向けの階層別研修のほか、ハラスメント研修や安全運転研修などを実施している。DX 技術伝承システムは、実務的な技能向上を目的とする一方で、全社研修では基礎的な知識の習得や意識の向上に重点を置いたプログラムとなっている。こうした基礎教育と実務教育を並行して進めることにより、社員一人ひとりの成長を支援し、自信を持って業務に取り組めるようになるとともに、成長意欲が高まり、働きがいやモチベーション向上につながると考えられる。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

いずれの KPI もインパクトに対する直接的な指標ではないものの、ウェルビーイングの実現に向けた重要な取り組みであり、有用であると判断した。今後は、これらの取り組みが社員の物心両面の幸福に寄与しているかを確認するために、社員満足度調査の実施も有効であると考える。

●環境負荷の低減

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面におけるネガティブインパクトの抑制
インパクトエリア・トピック	＜自然環境＞気候の安定性
関連する SDGs	
内容・対応方針	設備の運用および生産工程の最適化を通じたエネルギー効率の向上
KPI と目標	【KPI】 車輌事業の売上あたり電力消費量(kwh/売上高(百万円)) 【目標】 2029 年度:513.57 以下 (過去実績) 過去 3 年間(2022～2024 年度)の平均:641.97

自社の事業活動における環境負荷の軽減を測定する KPI として、「車輌事業の売上あたり電力消費量」を設定し、2029 年度までに過去 3 年間の平均値から 20%の削減を目標に掲げる。

同社の事業規模は直近 5 年間で約 2 倍に拡大しており、このような成長局面においては、エネルギー消費の絶対量ではなく、効率性を重視することが適切と判断し、売上原単位の目標とする。使用エネルギーのうち、電力の比率が高いため、本 KPI は電力を対象としている。また、環境リサイクル事業における環境機器の製造は外注対応もあり、自社工場では主に組立作業となることから、電力消費の削減に対する自助努力の効果を定量的に測定しやすい車輌事業に限定している。すでに照明の LED 化や設備の更新など、電力消費効率の向上に着手しており、今後さらなる効率化を実現するには、運用面や生産工程の見直しも含めた継続的な改善が必要であり、目標達成は容易ではない。原単位目標を設定とするものの、可能な限り総量ベースでの削減を目指す意向は確認している。

将来的には、自社におけるすべての使用エネルギーを対象として CO_2 排出量(Scope1・2)を算出し、これに基づいた削減目標を設定することが望ましいと考える。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved

4.モニタリング

（１）富士車輌におけるインパクトの管理体制と開示方針

富士車輌では、前述の通り、代表取締役社長を委員長とする「SDGs 委員会」を設置している。同委員会は年 4 回開催されており、TRE グループのマテリアリティや同社の SDGs 課題に基づき、各施策の検討を行うとともに、施策の実施状況や KPI の進捗確認などを行っている。

本 PIF 実行後においては、各部門での主体的な管理・推進体制の強化に加え、社内外への周知・浸透を図るため、各 KPI およびその達成状況について、決算期末より 3 か月以内に滋賀銀行へ報告する予定である。

（２）当行によるモニタリング

滋賀銀行および株式会社しがぎん経済文化センターは、PIF の契約期間中、当社の事業活動から意図したポジティブインパクトが継続して生じていること、重大なネガティブインパクトが引き続き適切に緩和・管理されていることを継続的にモニタリングする。

滋賀銀行は、当社との PIF の実行にあたり、インパクトを生み出す活動や KPI 等に関して、少なくとも年に 1 回、定期的に情報開示することを契約事項に組み込んでおり、公開情報での確認や日々の対話によって達成状況をフォローアップする体制を構築している。また、このフォローアップは単なる進捗の確認ではなく、必要に応じて、インパクト実現に向けた対応策等に関するエンゲージメントを行うものである。

以上

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK，LTD. All Rights Reserved

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、滋賀銀行が現時点で入手可能な公開情報、富士車輌から提供された情報や富士車輌へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。

2. 滋賀銀行が本評価に際して用いた情報は、滋賀銀行がその裁量により信頼できると判断したものではありますが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。

3. 本評価書に関する一切の権利は滋賀銀行が保有しています。本評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等をすることは禁止されています。

Copyright © 2025 THE SHIGA BANK, LTD. All Rights Reserved